

## 山 行 報 告 書

山行報告者：加藤

山 域・山 名： 雲 取 山 (2,017m)		(埼玉県・東京都)
入山日又は期間：平成 30年5月28日(月)～29日(火) (1泊2日)		
プラン担当者 正： 副：		
参 加 者	L： 記： 報：	
	加藤 計1名	
天候/両日共に曇り時々晴れ		
5月28日 (月)	5：10 南浦和駅～5：38/5：50 西国分寺～5：55/6：10 立川～7：30 奥多摩駅着～7：38 留浦経由。小菅の湯行のバスに乗り、留浦で下車 11：40 セツ石小屋着、トイレ、軽食～13：30 雲取山頂通過～ 14：20 雲取山荘テント場着	
5月29日 (火)	4：20 テント場出発～6：00 白岩山着、朝食～8：20 霧藻ヶ峰通過～ 9：30 三峰神社着、お参り～10：30 三峯神社発、西武秩父駅行バスに乗車 ～11：40 西武秩父駅着～12：08 飯能行の電車に乗って帰途につく	
装 備 と 食 糧	装 備：テント一式、シュラフ、シュラフカバー、マット、雨具、防寒具、着替え、 コッヘル、ストーブ、カートリッジ、ヘッドランプ、地図、コンパス、携帯電話、 ストック、衛生用品  食 料：4食分(28日朝昼夕、29日朝)、行動食、非常食、水	
<p>両日とも日差しが弱かったせいで、気温もさほど上がらず、この山域にしては乾いた風が吹いてくれたおかげで、非常に快適な陽気だった...</p> <p>...とはいえ、13kg担いでの登り6時間には毎度のことながらしこたま汗を絞られ、頭上にブヨの大軍をたからせて壮絶な形相だったに違いなく、また、寝不足のまま開始した下山は、空きっ腹も相まってまるで落ち武者の風体だったと自分で思う...</p> <p>奥多摩小屋が来年3月に取り壊される為、それ以降は小屋周辺のテント場も使用できなくなるとのことだった。雲取山荘のテント場が場所取り争奪戦になるのだろうか...</p> <p>初日は、夕日が遠くの山々のむこうに沈んでいく様が見られ、山荘の宿泊者たちが、</p>		

感想  
&  
要  
注  
意  
事  
項

スマホ片手に歓声を上げていたその様子が、とても素朴な感じがして良かった。...  
翌朝は、3時頃からホトトギスが大きな声で鳴き始め、その声で目が覚めて眠れなくなり、  
ああ今山にいるんだな...と心底しみじみしながらテントをたたんだ。...  
テント場には私のほかに3帳はられており、そのどれもが単独行の人間だった。...  
私の数少ない経験上思うのは、ベテラン単独テン泊者ほど朝はゆったり湯を沸かし、鳥の  
声など聴きながら優雅に過ごすように見える。...  
この日集った単独者たちは、まだ夜も明けないうちからいっせいにバタバタやりはじめて  
いた。ちなみに真っ先にテン場を発ったのは私である。...  
霧凧ヶ峰から先、炭焼平のあたりにかけて、霧が濃く立ち込めるときは非常に幽玄な景色  
が広がる。無数に突き出した杉の木々の根元と梢が霧で覆われて、遠くで幹がきしむ音が  
ギギギ...と響いてきて、真っ白な霧の中に登山道が一本吸い込まれていく様は、まるでこ  
の世から逸脱していきそうな不思議な光景なんであるが、今回、残念ながらその光景に遭  
遇することはできなかった。...  
どこまでもすっきり・カラリと整った山の空気だった。...  
5月の風がさわやかに吹き渡る山行は、全くもってしてありがたいのであるが、個人的に  
(大いに)期待していた奥秩父特有の湿潤な雰囲気にとっぷり浸る機会は、また次回に持  
ち越しとなった。...